

インジウム及びその化合物標準測定分析法（個人ばく露測定）（レスピラブル）

構造式: In 及びその化合物	分子量: 特定できない	CASNo.: 特定できない
許容濃度等: OSHA — NIOSH — ACGIH 0.1mg/m ³ (In として)	物性等 密度: — g/cm ³ (20℃) 沸点: — °C 融点: — °C	
別名		
サンプリング		分析
<p>サンプラー: サイクロン(25mmΦ, 37mmΦ) (GS-3 Multiple-inlet Cyclone・SKC inc.製) (GS-1 Respirable Dust Cyclone・SKC inc.製) サンプリング流量: 2.75L/min (GS-3)、2.0 L/min (GS-1) サンプリング時間: 480min 採気量: 1320L (GS-3)、960L (GS-1) 保存性: 抽出用混酸で抽出後の試料液（抽出液） は 15 日間までは常温で変化しないことを 確認 ブランク: 検出せず</p>		<p>分析方法: ICP-MS 法 抽出: 抽出用混酸（水: 硝酸: 塩酸=4:1:3） 17mL : 160℃ホットプレートで蒸発乾固直前ま で加熱、冷却後、希釈用酸（5%抽出用 混酸）で 40mL に定容 総インジウムとして定量 機器: Agilent 7500 i RF パワー: 1400W RF マッチング: 1.7V キャリアーガス: アルゴン 1.0L/min 測定質量数 (m/Z): 115 積分時間: 0.3sec (3 回繰り返し) 検量線: 市販標準液(1000 μg/mL)を希釈酸 (5%抽出用混酸) で調整 0~100ng/mL の範囲で直線 濃度計算: 干渉補正式を使用 定量法: 絶対検量線</p>
精度		
<p>回収率 101% (99~103%) 検出下限 (3σ) 0.02ng/mL (酸溶液の濃度) 定量下限 (10σ) 0.07ng/mL (酸溶液の濃度) 0.000002mg/m³ (採気量 1320L, 定容液量 40mL) 0.000003mg/m³ (採気量 960L, 定容液量 40mL)</p>		
適用		
妨害		
<p>リット参考 NIOSH Manual of Analytical Methods No.7301 SKC Inc. GS-3Multiple-inlet Cyclone Catalog Nos.225-100 and 225-103 SKC Inc. Publication #1711 Rev 1008</p>		

インジウム及びその化合物の標準測定分析法（作業環境測定）（レスピラブル）

構造式: In 及びその化合物	分子量: 特定できない	CASNo.: 特定できない
許容濃度等: OSHA — NIOSH — ACGIH 0.1mg/m ³ (In として)	物性等 密度: — g/cm ³ (20℃) 沸点: — °C 融点: — °C	
別名		
サンプリング		分析
サンプラー: サイクロン(25mmΦ, 37mmΦ) (GS-3 Multiple-inlet Cyclone・SKC inc.製) (GS-1 Respirable Dust Cyclone・SKC inc.製) サンプリング流量: 2.75L/min (GS-3)、2.0 L/min (GS-1) サンプリング時間: 10min 採気量: 27.5L (GS-3)、20 L (GS-1) 保存性: 抽出用混酸で抽出後の試料液（抽出液） は 15 日間までは常温で変化しないことを 確認 ブランク: 検出せず		分析方法: ICP-MS 法 抽出: 抽出用混酸（水: 硝酸: 塩酸=4:1:3） 17mL : 160℃ホットプレートで蒸発乾固直前ま で加熱、冷却後、希釈用酸（5%抽出用 混酸）で 40mL に定容 総インジウムとして定量 機器: Agilent 7500 i RF パワー: 1400W RF マッチング: 1.7V キャリアーガス: アルゴン 1.0L/min
精度		測定質量数 (m/Z): 115
回収率 101% (99~103%) 検出下限 (3σ) 0.02ng/mL (酸溶液の濃度) 定量下限 (10σ) 0.07ng/mL (酸溶液の濃度) 0.00011mg/m ³ (採気量 27.5L, 定容液量 40mL) 0.00014mg/m ³ (採気量 20L, 定容液量 40mL)		積分時間: 0.3sec (3 回繰り返し) 検量線: 市販標準液(1000 μg/mL)を希釈酸 (5%抽出用混酸) で調整 0~100ng/mL の範囲で直線 濃度計算: 干渉補正式を使用 定量法: 絶対検量線
適用		
妨害		
リット参考 NIOSH Manual of Analytical Methods No.7301 SKC Inc. GS-3Multiple-inlet Cyclone Catalog Nos.225-100 and 225-103 SKC Inc. Publication #1711 Rev 1008		

インジウム及びその化合物標準測定分析法（個人ばく露測定）（総粉じん）

構造式: In 及びその化合物	分子量: 特定できない	CASNo.: 特定できない
許容濃度等: OSHA — NIOSH — ACGIH 0.1mg/m ³ (In として)	物性等 密度: — g/cm ³ (20℃) 沸点: — °C 融点: — °C	
別名		
サンプリング	分析	
<p>サンプラー: 25mmΦメンブランフィルター (AAWP02500・日本ミリポア株)</p> <p>サンプリング流量: 1.0L/min</p> <p>サンプリング時間: 480min</p> <p>採気量: 480L</p> <p>保存性: 抽出用混酸で抽出後の試料液（抽出液） は 15 日間までは常温で変化しないことを 確認</p> <p>ブランク: 検出せず</p>	<p>分析方法: ICP-MS 法</p> <p>抽出: 抽出用混酸（水: 硝酸: 塩酸=4:1:3） 17mL : 160℃ホットプレートで蒸発乾固直前ま で加熱、冷却後、希釈用酸（5%抽出用 混酸）で 40mL に定容 総インジウムとして定量</p> <p>機器: Agilent 7500 i</p> <p>RF パワー: 1400W</p> <p>RF マッチング: 1.7V</p> <p>キャリアーガス: アルゴン 1.0L/min</p> <p>測定質量数 (m/Z): 115</p> <p>積分時間: 0.3sec (3 回繰り返し)</p> <p>検量線: 市販標準液(1000 μg/mL)を希釈酸 (5%抽出用混酸) で調整 0~100ng/mL の範囲で直線</p> <p>濃度計算: 干渉補正式を使用</p> <p>定量法: 絶対検量線</p>	
精度		
<p>回収率 101% (99~103%)</p> <p>検出下限 (3σ) 0.02ng/mL (酸溶液の濃度)</p> <p>定量下限 (10σ) 0.07ng/mL (酸溶液の濃度) 0.000006mg/m³ (採気量 480L, 定容液量 40mL)</p>		
適用		
妨害		
リット参考 NIOSH Manual of Analytical Methods No.7301		

作成日平成22年2月29日

インジウム及びその化合物標準測定分析法（作業環境測定）（総粉じん）

構造式: In 及びその化合物	分子量: 特定できない	CASNo.: 特定できない
許容濃度等: OSHA NIOSH ACGIH 0.1mg/m ³ (In として)	— — —	物性等 密度: — g/cm ³ (20℃) 沸点: — °C 融点: — °C
別名		
サンプリング		分析
サンプラー: 47mmΦメンブランフィルター (AAWP04700・日本ミリポア株) サンプリング流量: 10.0L/min サンプリング時間: 10min 採気量: 100L 以上 保存性: 抽出用混酸で抽出後の試料液（抽出液） は 15 日間までは常温で変化しないことを 確認 ブランク: 検出せず		分析方法: ICP-MS 法 抽出: 抽出用混酸（水: 硝酸: 塩酸=4:1:3） 17mL : 160℃ホットプレートで蒸発乾固直前ま で加熱、冷却後、希釈用酸（5%抽出用 混酸）で 40mL に定容 総インジウムとして定量 機器: Agilent 7500 i RF パワー: 1400W RF マッチング: 1.7V キャリアーガス: アルゴン 1.0L/min 測定質量数 (m/Z): 115 積分時間: 0.3sec (3 回繰り返し) 検量線: 市販標準液(1000 μg/mL)を希釈酸 (5%抽出用混酸) で調整 0~100ng/mL の範囲で直線 濃度計算: 干渉補正式を使用 定量法: 絶対検量線
精度		
回収率 101% (99~103%) 検出下限 (3σ) 0.02ng/mL (酸溶液の濃度) 定量下限 (10σ) 0.07ng/mL (酸溶液の濃度) 0.00003mg/m ³ (採気量 100L, 定容液量 40mL)		
適用		
妨害		
リット参考 NIOSH Manual of Analytical Methods No.7301		

作成日平成22年2月29日